

CXハッカソン B班発表

メンバー：中島,Oくん,Fくん,Iくん,Kさん

目次

テーマ

課題点

あるべき姿

提案内容

開発環境

実演

今後の展望

まとめ

テーマ

店舗内における顧客体験を向上させるためのアプリ提案



スマートな買い物ができる

テーマ

ターゲット

- ・ 郊外大型店舗
- ・ 家族連れ
- ・ 大規模な購入を考えている
- ・ カートでの買い物を行う



課題点

商品を探すことに楽しさを感じる人も
いるが時間がたつにつれ疲労がたまる



店舗探索の効率化が必要

疲労の原因

広い店舗での歩き疲れ
同じところを何度も循環



影響

購買意欲が低下し、**機会損失^{*1}**

*1会津大学(2023), <https://www.jc.u-aizu.ac.jp/news/management/gr/2023/10.pdf>

課題点

店舗探索を効率的にする手段はいくつかあるが本質的な改善には至っていない

手段①店員に聞く

店員を探すのに時間がかかる

店員の作業効率が低下する

店員が分からない場合もある

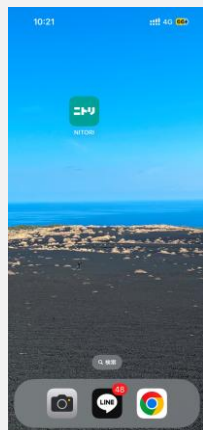
手段②既存アプリの活用

アプリの検索機能の認知度が低い

アプリの検索機能の手順が多い

課題点

アプリでは検索結果表示のために **12** 回の操作が必要であり、ユーザにとって手順の多い作業となっている



あるべき姿



商品の場所がすぐ見つかる

少ない手数で商品の検索
ができるようになる。



疲れにくい買い物

眼精疲労の軽減や
歩き疲れがないようにする。

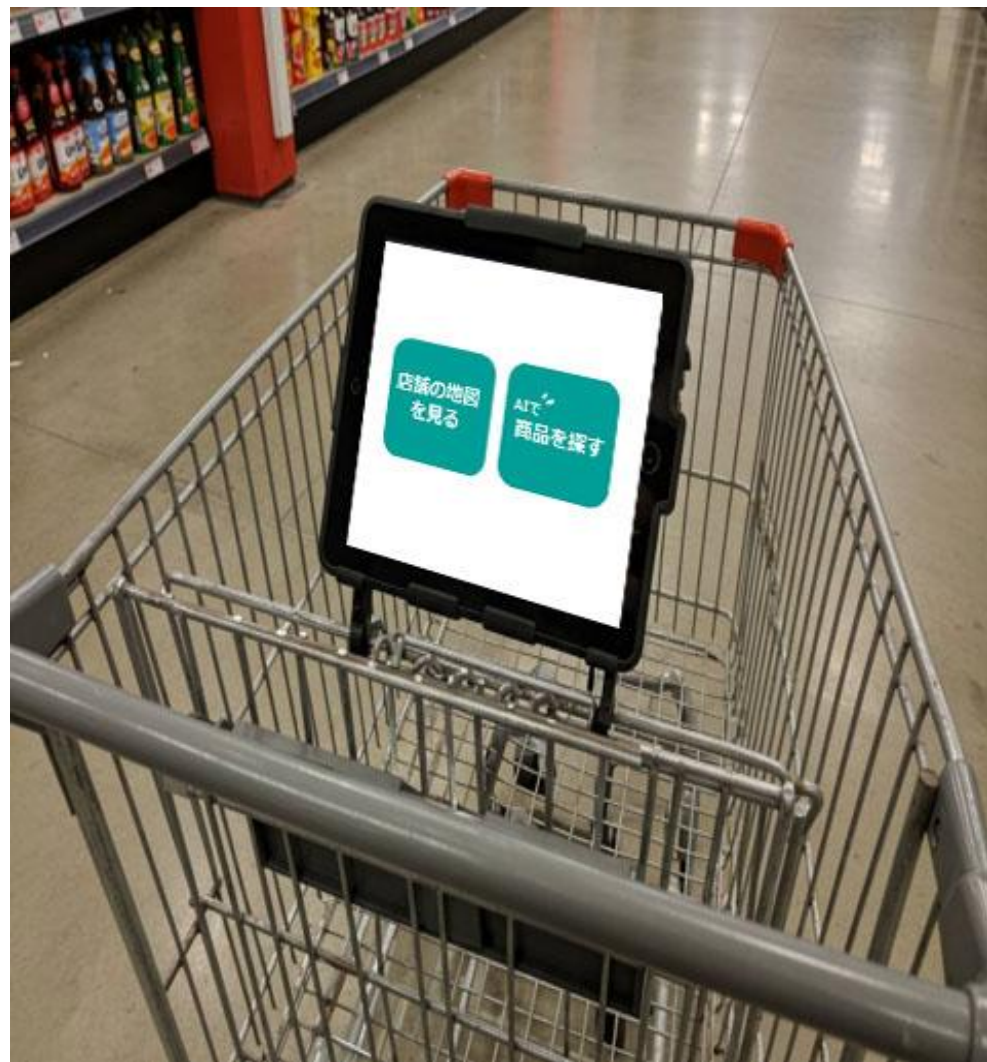
提案内容

AI de 検索

いつでも聞ける店員がカートに

カートに外付け可能なタブレット機器
を店舗入り口で貸与するサービス

店舗での商品検索に特化したUI



開発環境

使用言語 : Python(Flask), JavaScript, HTML, CSS

ソースコード管理:Git

データベース:使用しない

ファイル構成

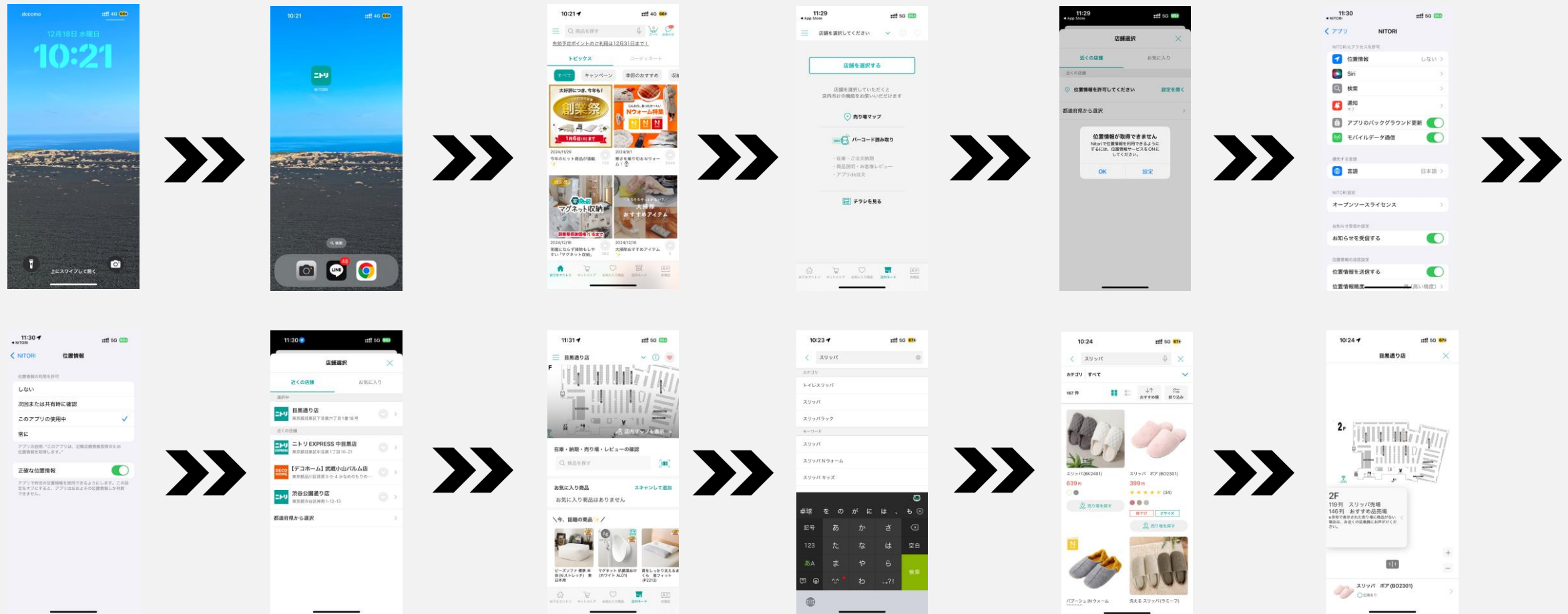
```
project
├── app
│   ├── __init__.py //インスタンスの作成
│   ├── main.py //サーバ側の挙動
│   ├── static //静的ファイル
│   ├── templates //HTML
│   └── utils.py //関数置き場
├── config.py
├── README.md
├── requirements.txt
└── tests
```

実演



成果①

アプリでは検索結果表示のために **12** 回の操作が必要であり、ユーザにとって手順の多い作業となっている

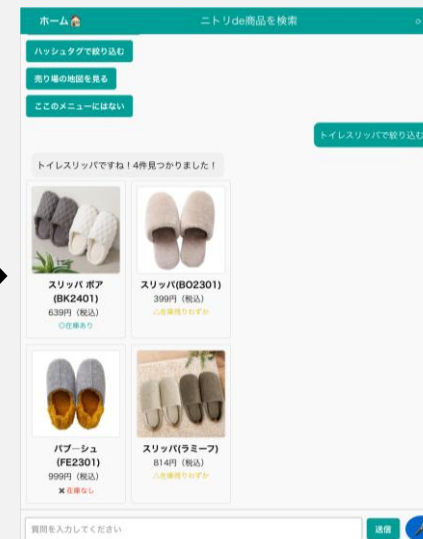
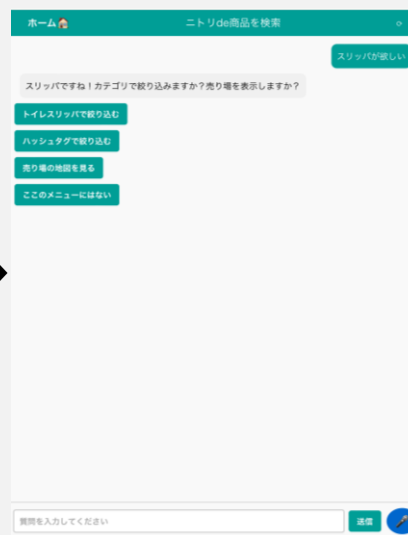


成果②

『AI de 検索』では手順を **5** 回に減らすことが出来た

店舗の地図
を見る

AIで
商品を探す



あるべき姿



商品の場所がすぐ見つかる

少ない手数で商品の検索
ができるようになる。



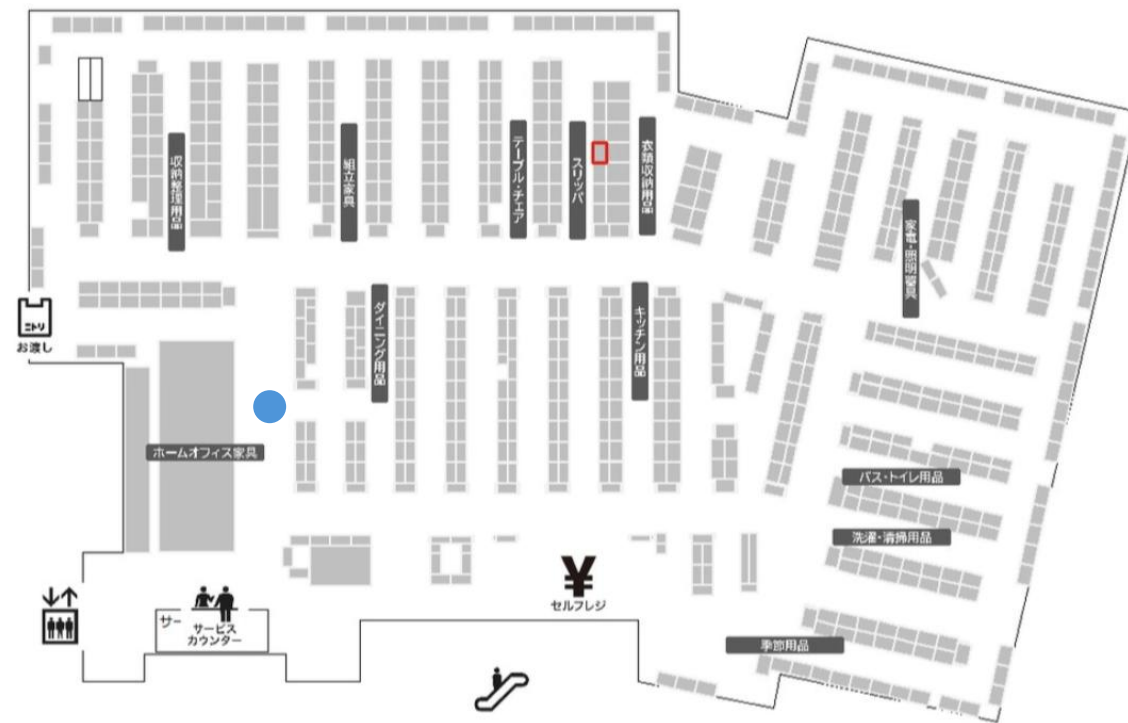
疲れにくい買い物

眼精疲労の軽減や
歩き疲れがないようにする。

今後の展望

- ・ GPSを活用したマップ表示
- ・ タブレットを用いた会計機能の追加

2_F



まとめ

目標：スマートな買い物を実現させる

問題点：店舗探索による疲労

課題点：解決策としてアプリがあるが、アプリにも欠陥があること

提案内容：外付けタブレットによる商品案内特化型AI

成果：検索に必要な回数が12回→5回程度に縮小